

2022年度 統計データ分析コンペティション  
審査員奨励賞 [高校生の部]

「文化」を通し生活を豊かにするには

浅野 心春 (神戸大学附属中等教育学校)

# 「文化」を通し生活を豊かにするには

浅野心春

神戸大学附属中等教育学校

## 1. 研究のテーマと目的

### 1.1 研究の目的

文化に関わる活動は、人々の生活を豊かにすることにどの程度貢献しているのかを調査し、また、人々の文化への興味を高め、文化的活動を促進させる要素について、周囲の環境や設備が及ぼす影響を統計的に分析することで、文化的活動を推進するために環境の整備がどの程度有効的であるのかを調査し、また効果的で市民のニーズに合った施設の整備や利用の提案を助け、市民生活を文化的観点からより豊かにすることに繋げることを本研究の目的とする。

### 1.2 問題意識の背景

初めに、文化とは、文化庁の文化を大切にする社会の構築についての答申より、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びを与え、人生を豊かにするものである<sup>(1)</sup>。また、ここでの文化的活動は、仕事や学業以外の場面で、芸術など、文化に関わることを楽しんだり、学んだりする活動のことを指す。市民生活にとって、これらの活動は暮らしを豊かにする重要な要素の一つである。したがって、身の回りには様々な文化的活動に参加する機会が設けられており、人々はサークル活動や美術鑑賞等によって、それらの活動を楽しんでいる。

しかし一方で、文化や芸術に触れることは、人々にとってあまり身近ではない。文化庁が実施した、「文化に対する世論調査」のアンケート結果によると、「あなたは、この1年間で、どの程度、コンサートや美術展、アートや音楽のフェスティバル、歴史的な文化財の鑑賞、映画その他の文化芸術的イベントを鑑賞しましたか」という質問に対し、46.1%が「まったく・ほとんど鑑賞していない」と回答し、鑑賞をした人々についても、14.7%が「1年に1回程度」、14.9%が「半年に1回程度」と答えている<sup>(2)</sup>。このことから、あまり日常生活において、文化的活動が身近なもので、生活の中で重要な要素であると認識している人が少ない、または、生活の中での優先度が低いという人が多いのではないかとと思われる。

加えて、実際に市民の文化への興味や文化的活動にいかに関わっているのか、また、貢献しているのかが分かりにくい。また、上のような活動は、施設や整備を必要とすることが多い。例えば、博物館などである。しかし、生活を豊かにするという点において、市民にとって、このような施設がある、といった環境は、どの程度文化に対する意識を持つことに影響しているのか、不明瞭である。実際に環境として十分であることで、人々が足を運ぶことにつながるのか、という点に関しては疑問が残っている。

### 1.3 先行研究の概要

近年では様々な形の活動が行われている。文部科学省の学制百二十年史によると、文化活動は、音楽、美術、演劇、文学、食生活文化、服飾文化など、広範な分野にわたり、それぞれ、多くはここ二十年の間に設立された文化庁所管の公益法人を中心として普及が図られた<sup>(3)</sup>。したがって、政策等の一環として、様々な促進活動が行われているとわかる。施設面においても、令和3年度社会教育調査の中間報告によると、図書館、博物館、博物館類似施設の数は増加しており、劇場、音楽堂等の数もほとんど変化はないが、その施設数は一定に保たれ、維持されている<sup>(4)</sup>。一方で、公民館の数は減少している。次に、施設で実施される学級・講座及び諸集会の数について、図書館、博物館、博物館類似施設において、平成29年度まで増加していた<sup>(4)</sup>。一方、

公民館と劇場、音楽堂等での学級・講座及び諸集会の数は、平成22年度から26年度にかけて、落ち込み、29年度にかけてまた回復しているが以前よりも活動自体は減少している<sup>(4)</sup>。令和2年度になってからは、いずれの施設で実施される活動についても大幅に減少している<sup>(4)</sup>が、これは新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響と考えられる。

## 2. 研究の方法と手順

研究目的にある内容を調査するために、要素ごとに、Excelにて分析し、調査を行った。初めに、芸術・文化に関わる学習・自己啓発・訓練、趣味・娯楽となる活動、スポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動のそれぞれの活動をした人の割合と、都道府県別の博物館等の施設の数を都道府県ごとに比較し、市民の文化的活動やそれに関係した行動をどのような種の施設が支えているのか分析した。また、ここで生活の豊かさを、人々が自分で感じる幸福の度合いと考え、上で挙げた、それぞれの活動が生活をどの程度豊かにできているのか、都道府県幸福度ランキングの、幸福度の数値の結果と、それぞれの活動をした人の割合の相関関係を分析した。

## 3. データセットの加工

表1 使用したデータ・出典一覧

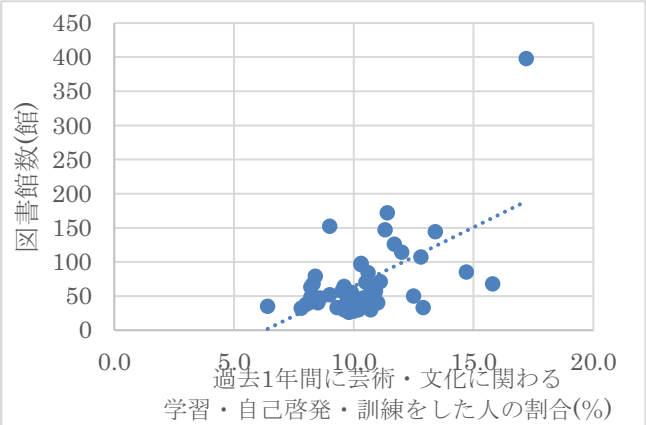
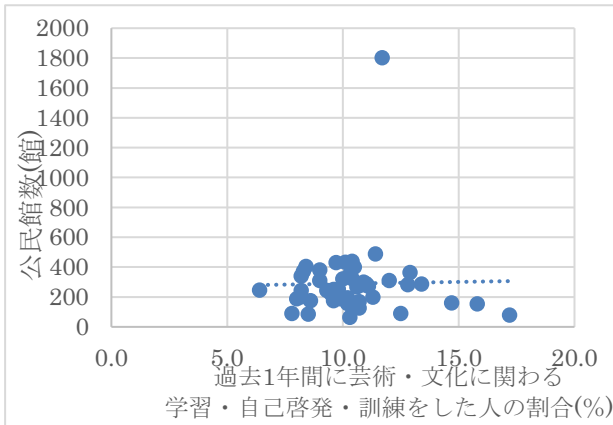
使用したデータ	出典	年次
過去1年間に活動した人の割合（行動者率） 学習・自己啓発・訓練 6_芸術・文化	SSDSE-D	2016年
過去1年間に活動した人の割合（行動者率） 趣味・娯楽 00_趣味・娯楽(総数)	SSDSE-D	2016年
過去1年間に活動した人の割合（行動者率） ボランティア活動 05_スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動	SSDSE-D	2016年
公民館数	SSDSE-E-2022v2	2018年
図書館数	SSDSE-E-2022v2	2018年
博物館数	SSDSE-E-2022v2	2018年
映画館数	SSDSE-E-2022v2	2016年
劇場、音楽堂等数	SSDSE-E-2022v2	2018年
都道府県幸福度ランキング	ブランド総合研究所 第4回 地域の持続性調査2022	2022年

## 4. データ分析の結果

### 4.1 環境が人々の行動に与える影響の分析 I

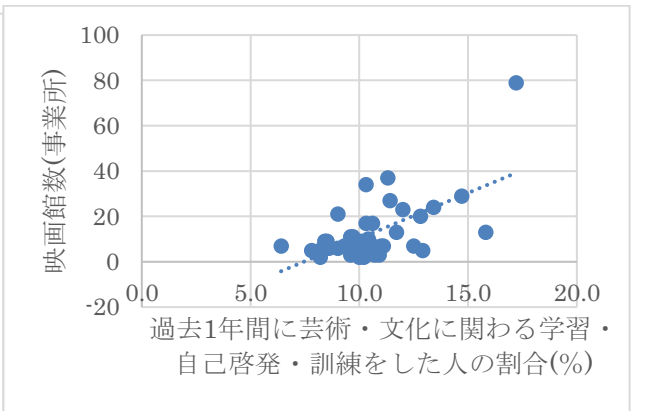
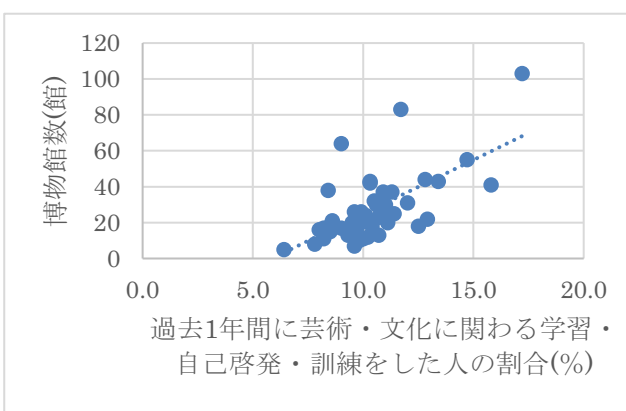
まず、芸術・文化に関わる学習・自己啓発・訓練をした人の割合についての分析を行った。過去1年間に芸術・文化に関わる学習・自己啓発・訓練を行った人の都道府県ごとの割合と、公民館、図書館や博物館とい

った施設の都道府県ごとの数の相関関係を分析した。



(左) 図1 公民館の数と芸術・文化の学習・自己啓発・訓練の相関関係

(右) 図2 図書館の数と芸術・文化に学習・自己啓発・訓練の相関関係



(左) 図3 博物館の数と芸術・文化の学習・自己啓発・訓練の相関関係

(右) 図4 映画館の数と芸術・文化の学習・自己啓発・訓練の相関関係

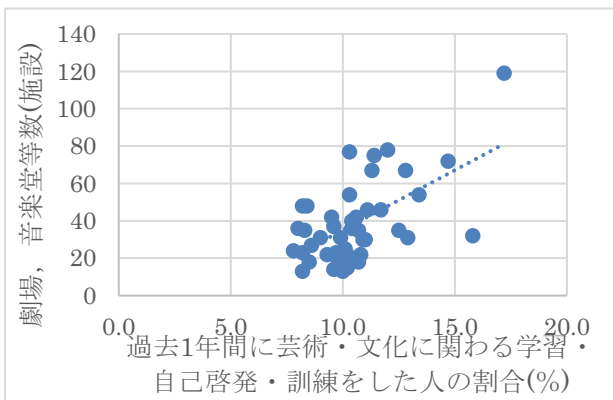


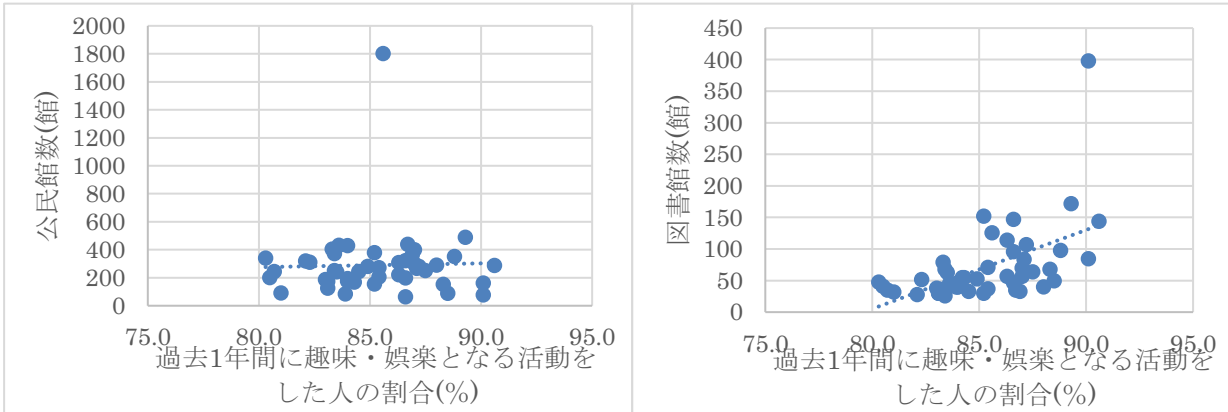
図5 劇場、音楽堂等の数と芸術・文化の学習・自己啓発・訓練の相関関係

初めに、公民館の数と芸術・文化に関わる学習・自己啓発・訓練を行った人の割合の相関係数は、0.019826564で、殆ど相関関係がなかった。一方、そのほかの施設については、全て正の相関が見られた。それぞれの施設と、芸術・文化に関わる学習・自己啓発・訓練を行った人の割合の相関係数は、図書館の場合は、0.58527749、博物館の場合は、0.64898976、映画館の場合は、0.627512126、劇場、音楽堂の場合は0.552940843となった。以上の結果より、図書館、博物館、映画館、劇場、音楽堂といった施設は、人々の芸術・文化に関わる学習・

自己啓発・訓練と何らかの関係があり、施設数が増えるほど、それらの活動を行う人が多いということが分かった。一方、公民館の数はあまり相関がないことも分かった。

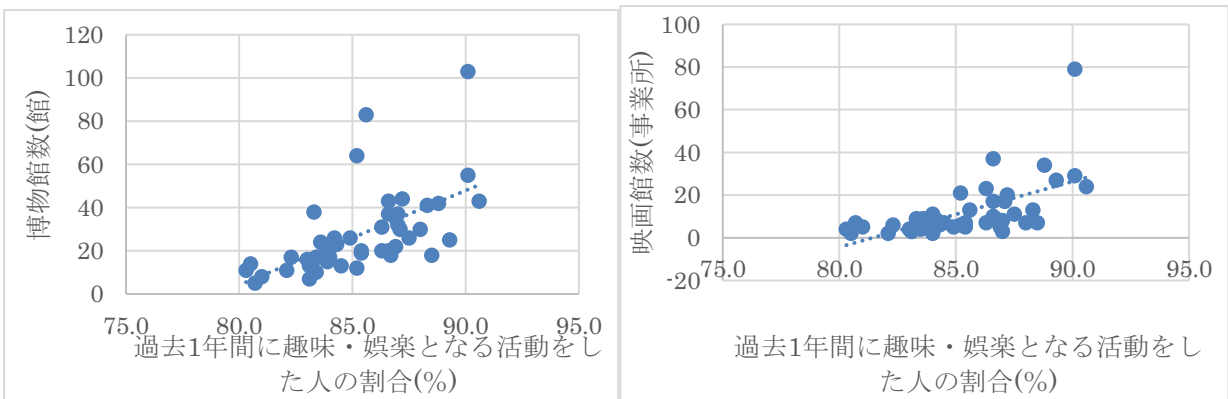
#### 4.2 環境が人々の行動に与える影響の分析 II

次に、趣味・娯楽となる活動を行った人の割合について、4.1と同様に分析した。



(左) 図6 公民館の数と趣味・娯楽となる活動の相関関係

(右) 図7 図書館の数と趣味・娯楽となる活動の相関関係



(左) 図8 博物館の数と趣味・娯楽となる活動の相関関係

(右) 図9 映画館の数と趣味・娯楽となる活動の相関関係

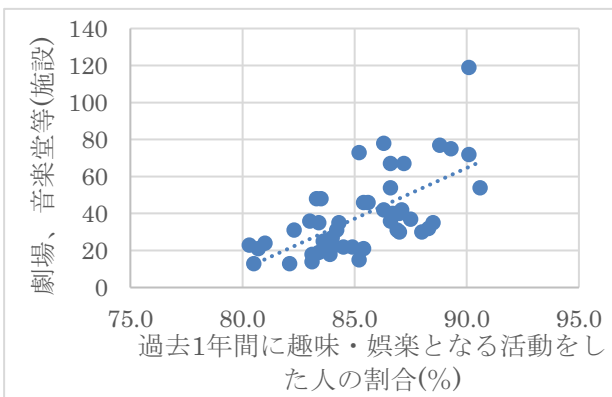


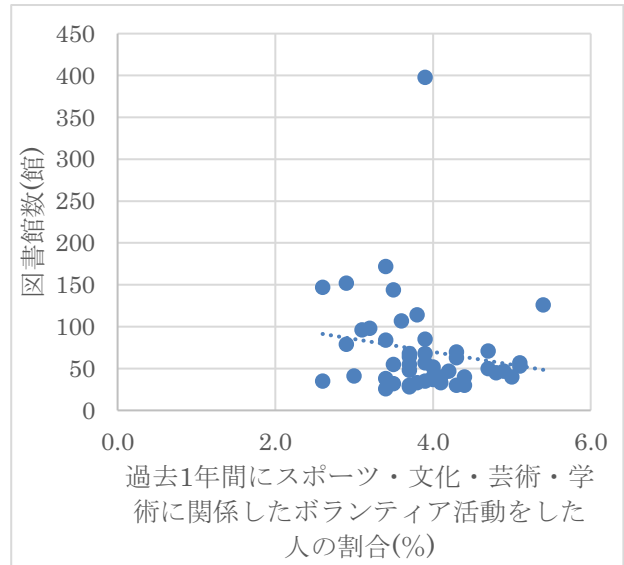
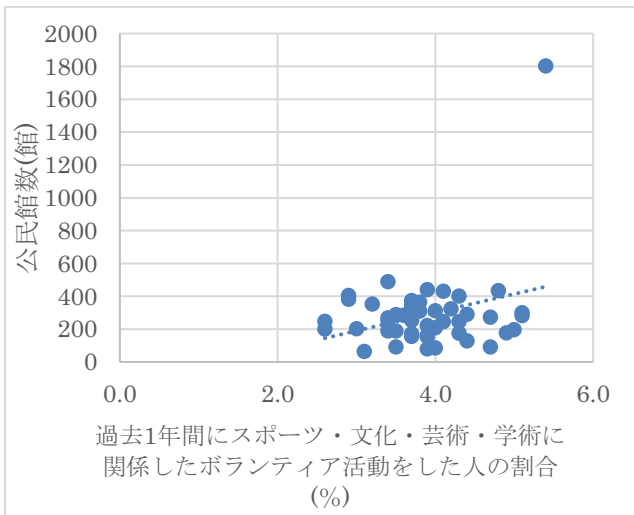
図10 劇場、音楽堂等の数と趣味・娯楽となる活動の相関関係

それぞれの施設数と、趣味・娯楽となる活動をした人の割合の相関係数について、公民館の場合は、0.028129726、図書館の場合は0.531393587、博物館の場合は0.594372561、映画館の場合は0.60469135、劇

場、音楽堂等の場合は0.647448791であった。公民館が最も相関係数が小さく、相関関係があまり見られないが、その他の施設については、0.5から0.6前後と、相関係数が比較的高く、何らかの相関関係があるものと思われる。

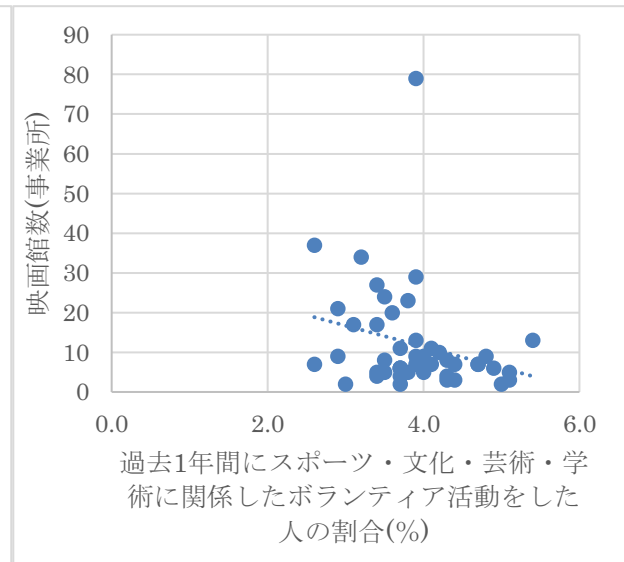
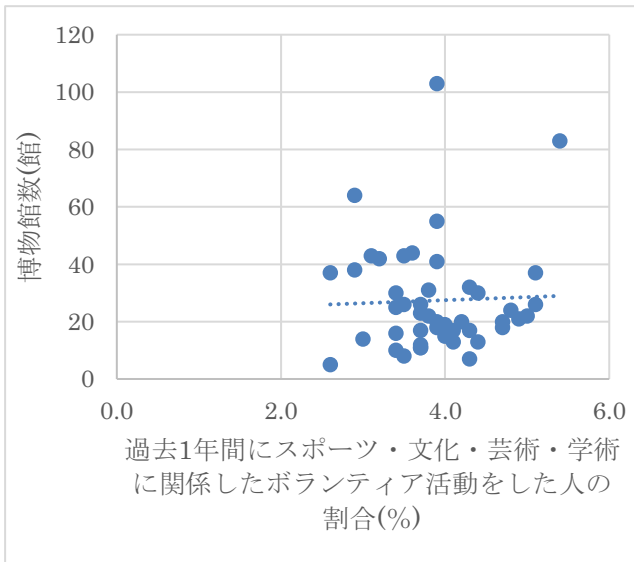
### 4.3 環境が人々の行動に与える影響の分析 Ⅲ

次に、スポーツ・文化・芸術・学術に関連したボランティア活動をした人の割合についての分析を行った。過去1年間にスポーツ・文化・芸術・学術に関連したボランティア活動をした人の割合と、公民館、図書館、博物館、映画館、劇場、音楽堂等の施設数の相関関係について、4.1、4.2と同様に都道府県ごとに比較を行った。



(左) 図 11 公民館の数とスポーツ・文化・芸術・学術のボランティア活動の相関関係

(右) 図 12 図書館の数とスポーツ・文化・芸術・学術のボランティア活動の相関関係



(左) 図 13 博物館の数とスポーツ・文化・芸術・学術のボランティア活動の相関関係

(右) 図 14 映画館の数とスポーツ・文化・芸術・学術のボランティア活動の相関関係

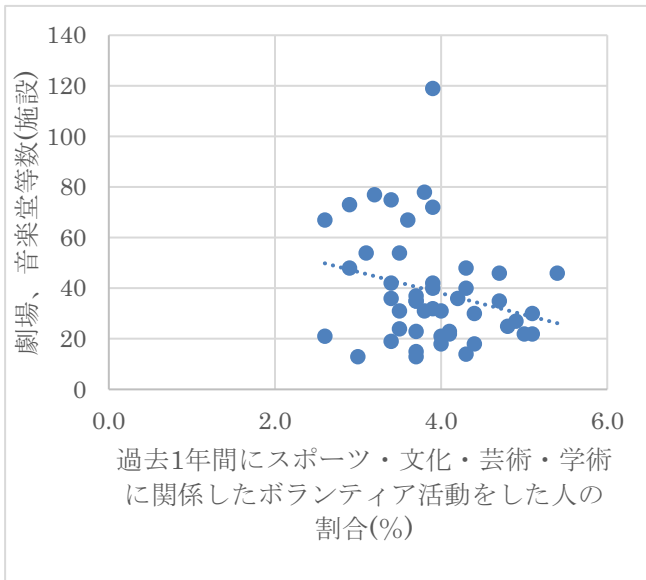
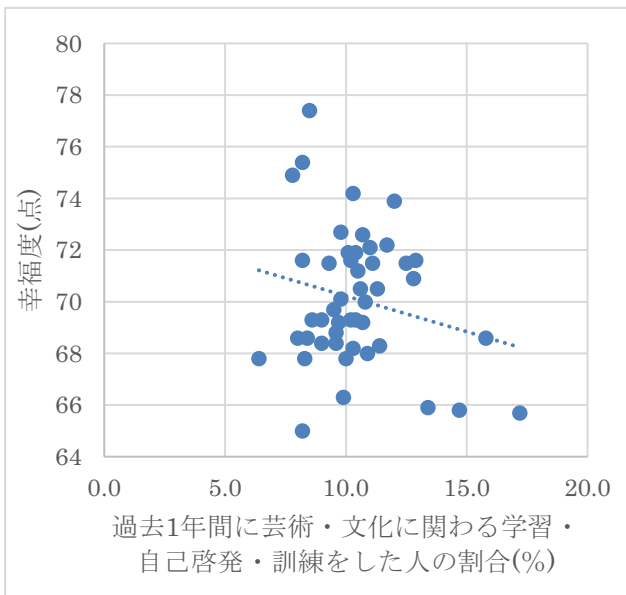


図 15 劇場、音楽堂等の数とスポーツ・文化・芸術・学術のボランティア活動の相関関係

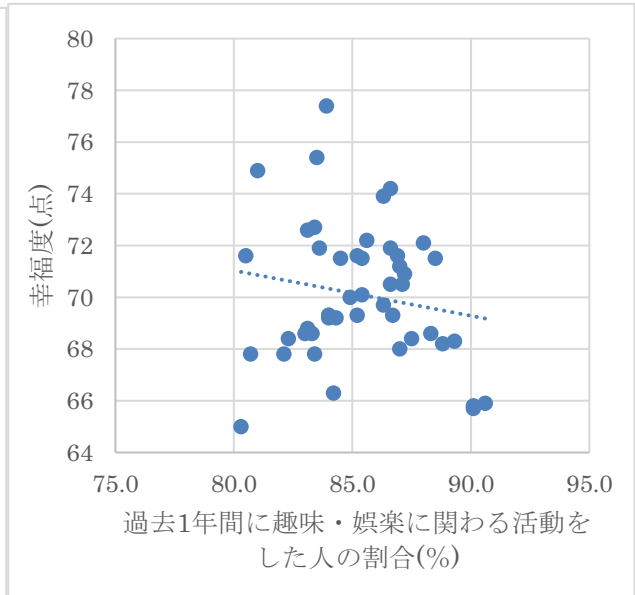
それぞれの施設の数と、過去1年間にスポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動を行った人の割合の相関係数については、公民館の場合は 0.295285664、図書館の場合は-0.16486314、博物館の場合は 0.036565427、映画館の場合は-0.26456169、劇場、音楽堂等の場合は-0.25288949 であった。最も高い正の相関が見られたのは公民館の数で、その次が博物館の数であるが、博物館の数との相関係数はかなり小さく、あまり相関はないと思われる。一方で、図書館、映画館、劇場、音楽堂等の数との間には負の相関が見られた。

#### 4.4 文化的活動が人々の感じる幸福に与える影響の分析

次に、4.1 から 4.3 までで分析した、各活動を行った人の割合と、人々が感じる幸福度の相関関係について、都道府県ごとに分析した。



(左) 図 16 幸福度と芸術・文化に関わる学習・自己啓発・訓練の相関関係



(右) 図 17 幸福度と趣味・娯楽となる活動の相関関係

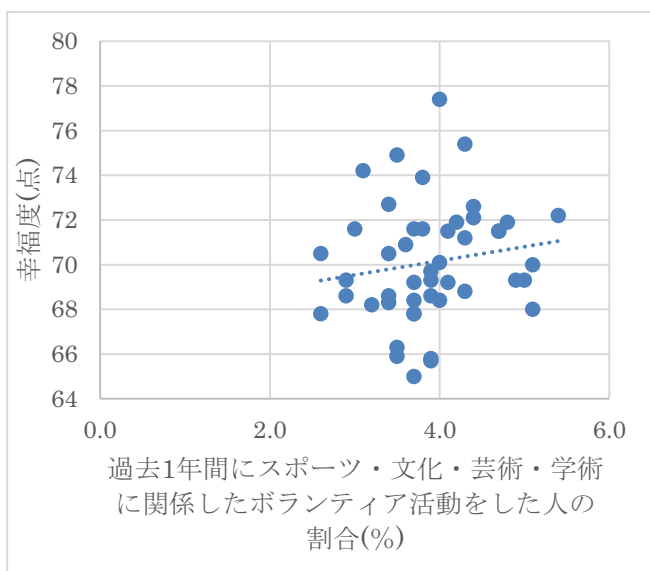


図 18 幸福度とスポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動の相関関係

芸術・文化に関わる学習・自己啓発・訓練をした人の割合と、幸福度の相関係数は-0.21537、趣味・娯楽となる活動をした人の割合と、幸福度の相関係数は-0.17137、スポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動をした人の割合と、幸福度の相関関係は0.156836となり、芸術・文化に関わる学習・自己啓発・訓練と、趣味・娯楽となる活動は負の相関を示した一方で、スポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動については正の相関が示されていた。

## 5. 結果の解釈

初めに、それぞれの施設の数と、各文化的活動との関係について、芸術・文化に関わる学習・自己啓発・訓練と、趣味・娯楽に関わる活動は、公民館の数との相関のみほとんど見られず、その他の施設については正の相関が比較的強く見られた。このことから、周りに足を運べる施設があるという状況と、自分自身へ還元される活動には相関関係があることが分かった。その地域に、文化的活動を積極的に行う人が多いことで、そういった施設がつくられるようになったという可能性も否定できないが、ある程度環境が整っていることで、周辺地域の人々が行動を起こしやすいという状況が生まれているのではないかと考えられる。一方で、公民館の数は人々の行動に影響をあまり及ぼせていないが、これは、公民館で行われる活動が、多くの人々の需要と合っていないことや、公民館で行われるイベント等について、あまり知る機会がないことなど、なじみがない施設であるという印象が強いからという理由が挙げられるのではないかとと思う。一方で、スポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動については、公民館の数が最も高い正の相関を示していた。これは、公民館の利用者が多い地域において、ボランティア活動に熱心な人が多いということや、公民館に関連した活動にボランティア活動が多いということも考えられる。図書館、映画館、劇場、音楽堂等の数においては、負の相関が見られた。こういった結果から、このような施設の多い場所にはボランティア活動に熱心な人が少ないということが考えられるが、一方で、映画館や劇場等は、比較的都市部に多いことから、ボランティア活動を行える場所がない、またはそのような時間を取れる人が少ないということも理由として挙げられるのではないかと考察した。

次に、各活動と、人々の感じる幸福度の相関関係についてであるが、芸術・文化に関わる学習・自己啓発・訓練と、趣味・娯楽に関わる活動については負の相関が見られた。考えられる理由としては2つあり、1つ目



は、これらの活動が逆に人々の負担となっているということである。自分自身で選んだ活動であっても、時間を圧迫するなどの負担が出ていたりすることが考えられる。もう 1 つの理由としては、あまり生活に豊かさや幸福が感じられないからこそ、このような活動を行うことで、生活を充実させようとしているのではないかということである。趣味・娯楽となる活動等を行うことで、仕事など、日常生活のストレスの軽減を試みているということが考えられる。また、スポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動については、性の相関が見られた。この結果についても、ボランティア活動を行うことが、幸福に結び付き、生活を豊かにしていると考えられるが、一方で、ボランティア活動を行える人々は、元より自信の暮らしに比較的余裕のある人が多いために、幸福をその時点である程度感じているとも考えられる。

したがって、結論として、図書館や博物館、劇場といった、文化的活動に関わる施設は、ある程度周辺の人々がそのような活動を行いやすくすることに貢献しているが、一方で、それがどのような活動であるのかによって、影響を及ぼせる施設は異なるといえる。また、文化的活動の盛んさと幸福度、つまり生活の豊かさにはある程度関係があるが、それは文化的活動が豊かさに影響を与えているのか、その逆であるのかは、わからなかった。

以上より、文化的活動を促すために、図書館や博物館といった施設を整備するということは有効であるが、それを生活の豊かさにつなげられるかには疑問が残るため、ただ環境を整えるのみでは豊かさにはつながらないと結論を出した。

## 参考文献

(1) 文化庁：文化を大切にする社会の構築について(答申)。

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai\\_2/shakaikochiku\\_toshin/](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_2/shakaikochiku_toshin/)

(閲覧日：8月29日)

(2) 文化庁：文化に関する世論調査 報告書 (2019)。

[https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/pdf/r1393020\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/r1393020_01.pdf)

(閲覧日：8月29日)

(3) 文部科学省：学制百二十年史 第十章 文化 第一節 文化行政の新しい展開 四 文化活動の広がり。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1318520.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318520.htm)

(閲覧日：8月29日)

(4) 文部科学省：社会教育調査 結果の概要 (2022)。

[https://www.mext.go.jp/content/20220727-mxt\\_chousa01-100012545\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220727-mxt_chousa01-100012545_1.pdf)

(閲覧日：8月29日)

(5) ブランド総合研究所：第4回 地域の持続性調査 2022 幸福度1位は沖縄県(2年連続)。愛着、定住意欲と三冠 (2022)。

<https://news.tiiki.jp/data/upload/%E7%AC%AC%EF%BC%94%E5%9B%9E%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E3%81%AE%E6%8C%81%E7%B6%9A%E6%80%A7%E8%AA%BF%E6%9F%BB2022%E3%83%AA%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9.pdf>

(閲覧日：8月29日)